

# S.G. Report

No.3

## 水俣フィールドトリップ

日 時：平成28年7月28日（木）8：30～本校発 水俣へ

参加者：SGコース57名

引率者：本校教諭（松村、宮原、森）

目 的：（1）熊本県の環境課題である水俣病の歴史を持ち、全国屈指の環境先進都市である水俣で、環境問題への取り組みを学ぶ  
（2）町づくりについて諸講師との意見交換を行うことにより、今後の課題研究への意識を高める

## 研修内容

8：30 本校出発



10：30～ 田中商店

田中商店内の工場見学や、「環境保護に対する取り組み」の講話を聴き、リユース事業について学びました。リユース事業を目の当たりにする事で、環境問題をより深く考えるきっかけにもなりました。初めて聞く「エコビジネス」の言葉など、勉強になることが多く有意義な時間を過ごしました。



13：00～ 水俣病資料館

水俣資料館を見学し、その後、語り部の緒方正実さんから、体験やメッセージを交えながらの水俣病に関する講話を聴きました。緒方さんからの「様々な出来事と正面から向き合う事が、幸せになる条件である」という“メッセージ”は、自分自身の在り方生き方など、様々な事を感じ・考える事ができました。生徒たちにとって別の角度から水俣病を考えるきっかけになったと思います。



15：15～ 水俣市公民館

「サラたまちゃん」の生みの親、田端 和雄様（JA）より、食の安全への取り組み、当時の水俣病を取り巻く状況等に関する講話を聴きました。「サラたまちゃん」開発へのプロセスを詳しく教えて頂けただけでなく、開発途中での水俣・水俣病に対する偏見との戦いなど初めて聞く内容に驚きました。



## 16:15～ 水俣高校生との情報交換会

水俣高校1年生(SGH指定校)との情報交換会を行いました。「SGHの取り組み」について両校が発表し、その後、質疑応答という内容でした。本校からは、1年10組の神元七海さん・中田真生子さんが入学後から現在まで取り組みを発表しました。今回は、日程の関係で短い時間の情報交換会でしたが、SGH指定の他校の取り組みを知ることで良い刺激になりました。



19:00 本校到着

## 水俣フィールドトリップを終えての感想

・僕がこの研修を通して学んだのは、何か問題が発生したとき、それと正面から向き合って解決を目指すことの大変さと必要性です。水俣では戦後復興の中で発生した公害と正面から向き合うことを避けてきたため深刻な被害が発生してしまいました。語り部の緒方さんは、「周りからの差別や偏見から逃れたいが為に38歳まで「自分は水俣病でないとうそをついていた」とおっしゃっていました。しかし、罪悪感がどんどんたまっていくのを感じていた緒方さんは、懸命に生きる姉や亡き祖父の事を考え、水俣病と正真に向かいあうことにしたのです。緒方さんの他にも、水俣では正面から水俣病と戦う人が多くいます。田中商店の皆さんであったりサラタマちゃんを作った田畑さんであったり。過去の嫌な出来事から目をそむけず、今を明るく生きるために生きる皆さんが素晴らしいと思いました。

僕はまだ15歳で、出来る事など限られているけれど、皆さんの生き方から学べる点は多いと思います。自分が向き合いたくない課題、他人から馬鹿にされるような自分の欠点にも向き合い、自分の望む生き方のために全てを懸ける。簡単ではないことをこの研修でより感じましたが、だからこそ、自分の生活に最も関係のある課題として向き合っていきたいです。(10組 男子)

・水俣に行くのは、この人生で2回目だが、「高校1年生」として研修を受けたことによって、「1回目のフィールドトリップよりも学ぶことがたくさんあったので、中でも、私は、「田中商店」の魅力について感銘を受けた。私の夢はもともと「環境にやさしいものづくり」をする人になることなので、講話の終盤で話されていた水俣の街を活性化するために空きビンを使った、工芸品の製作に興味を持った。田中さんのアイデアの素晴らしさと、水俣の公害の教訓を培った「Rビン」を使った工芸品は、まさしく自分の夢へ大きく重なっていると、講話から感じた。田中さんは講話の中で、「環境〈自然環境〉を守るためには、まず経済的な面から考えなければならぬ」とおっしゃっていた。まずは資本を集めなければ、何もできないと改めて痛感した。

高校生活はまだ1年も過ぎていないが、自分の将来は目前だとつくづく感じる。緒方正実さんのいう「正直な人間」になるため、日頃の学校生活でありのままのことを伝えられるような人になるよう努力したい。そして残りの2年の学校生活を自分の夢を意識しながら、何事にも疑問を持ち、SGRの授業を中心に全力で頑張っていきたい。(10組 男子)

・この研修の中には合わせて3つの講話があったが、そのすべてに共通していることは水俣病を教訓としているということだった。田中商店さんではピンを色々なものにリメイクしている光景が見られた。私は今まで3Rしかないと思っていたから、6Rもあると聞いて驚いた。ゴミをできるだけ減らすことを目指して活動されていることを知ることができた。水俣病資料館では、小5の時に得た知識の上にさらに新しい知識を上乗せすることができた。また、小5の時とは違った感性で語り部さんのお話を聞くことができたから、心に響くものがあった。「正直に生きること」それが自分のためになるのだと心から感じた。サラタマちゃんの名が全国へ広がるまでの生産者の方の努力の過程をくわしく知ることができた。

この研修で一番心に残った言葉は「正直に生きろ」という言葉だ。これからは、自分にも他人にも嘘をつくことなく、正直に生きていきたいと思う。(10組 男子)

・今回、水俣フィールドトリップに参加して感じたことは、実際に水俣に行ってお話を聞くことで初めて気づくことがあったということです。この研修では、田中商店と水俣病資料館とサラタマちゃん部会から講話をいただきました。私は、最初は「サラタマちゃん」と水俣病と田中商店さんの取り組みが全て関係しているとは思っていませんでした。しかし、それぞれの講話をいただいて、田中商店さんの6R活動や「サラタマちゃん」が水俣病を経験したからこそ環境に対する意識が高いため、現在取り組むことができていると分かり、全てが繋がっていてすごいと思いました。また、環境に配慮し、周りの人にも配慮しながら、資源や経済活動が循環していくことが大切だということが分かりました。

水俣病のことについては、「まだ水俣病は終わっていない」ということや「正直に生きる」ことが容易ではなかった水俣病患者の方や家族の方々の複雑な気持ちを感じ、学ぶことができました。小学生と中学生の時とは違って、今回は環境の面からも水俣をしっかりと見ることができたので、自分たちのことばかりでなく、周りのこともしっかりと見て、自然にやさしい生活をしていきたいと思います。(10組 女子)

・私は今回の研修を通して、中学生の頃には気付けなかった、また考えられなかったところに気付くことができたと思います。1番最初に見学させて頂いた田中商店さんでは、水俣の人たちの環境に対する意識の高さを、強く感じました。ピンを洗うだけでなく、ガラスピンからカレットを作り景観舗装に使ったり、スーパーソルというものを作り、屋上緑化の土台を作ったりなど、環境に配慮した沢山の試みがなされていました。私が特に驚いたのは、ピンを洗うときに使用した水を露化、殺菌して、再び洗浄水に使用しないか、今研究されているということです。また、廃棄物Oの中で商品を作り地域でお金を回し、活性化を図ろうとする姿勢がすごいと思いました。水俣がリユースのエコタウンに指定されている意味がよく分かった見学でした。

緒方さんの講演では、ご自身の体験を語って頂き、とても貴重なお話を聞かせていただいたと思います。正直に生きることの難しさは、水俣病に限らず、様々な場面であると思います。

しかし、つらいことから逃げず、しっかり向き合っていけるよう私も努力しようと思いました。

田畑さんには、サラタマちゃんについてのお話をいただきました。

サラタマちゃんが厳しい基準の中で作られていることが良くわかりました。苦労して作ったのに、

水俣産だというだけで大丈夫かどうか疑われるとは、どれだけつらいことかと思いました。世の中の偏見の目に負けずに、今全国でつかわれるまでサラタマちゃんの名前を広げた田畑さんのメンタルの強さに感動しました。

今回の研修では3人の方と、水俣高校の皆さんにお話を聞きましたが、共通して私が感じたことは、水俣病を風化させず、新しい水俣を作っていこうという強い意志です。

それは、熊本市、大きく言えば、日本も見習った方が良い考え方だと思います。多くの方々の犠牲のうえで、今の私たちがあるということを忘れず今後も、環境の保護、改善のためにSGコースで勉強していきたいと思いました。 (10組 女子)

・田中商店、水俣病資料館での緒方さんの講演、JA 田畑さんの講演そして水俣高校との情報交換。どの学びを通して私には水俣市のこれから明るい可能性が感じられた。田中商店さんでは、リユース・リサイクル事業が、きちんと事業として成り立っていることをはっきりと教えてもらった。正直、循環型社会を目指すためのリサイクル事業と聞いたら寄付をつのってでもお金が集まらなくて破綻するかそもそも採算がみこめないという先の未来しか想像できなかった。しかし、地域内でお金を回そうという考えだとどんなに成功できるかと驚いた。緒方さんの講演でも私の先入観はバッサリと切られた。水俣での講演は小学校の時に授業で行ったが、その時は水俣病の被害のつらさや政府、企業との戦い！という当たり前だけど決して明るくない話ばかりで聞いていて自分も苦しいという思い出となっていたので、あまり講演を聞くのに気は乗らなかった。

しかし、確かに緒方さんの講演も明るい話ではなかったが、緒方さんの話からは、政府に負けるか！水俣病に負けるか！そして自分に負けるか！！という強い意志が感じられた。またその感情は決して復讐心ではなく挑戦的な反抗心だったと思う。だから私は水俣病に苦しめられてきた水俣病被害者、そして市の人々たちの苦しみも少しずつなくなっていくのだと感じ取れた。

JA 田畑さんの講演も同じだ。“水俣”生産品というだけでどれだけ農家の人々がつらい生活を送ったのか、はかり知ることはできないが、それでもよりよい品質で挑戦していこうとした農家の人々を本当に尊敬する。水俣高校が今年からSGHに指定されたということでまた、よい影響が出てくると思う。水俣病が発生し、苦しい年がつついてきた水俣はその反動でこれからどんどん新しい活動が活発になるだろう。またそのような活動は市の機能が水俣病という出来事を受けて、強化されたからだと思う。私のレポート内容と合致している部分があるのでそこを掘り下げて学びたいと考える。(9組 女子)

・私はこの研修を通して、水俣病の悲惨さと、環境への取り組みについて学びました。

小学生のときにも水俣で水俣病について学び、中学生の時は授業で学んだので、今回が3度目でした。しかし、1回目、2回目とはまた違ったことを学ぶことができました。

水俣病が公式に確認されてすぐに排水は止められたのだと今まで思っていたのですが、実際は公式確認後もしばらく流れ続けていたことを知り、驚きました。対応が遅れたことで、被害が拡大し、多くの方々が苦しみました。そして、一番苦しかったことが、差別を受けたことだったということも初めて知りました。同じ水俣でも被害が出ているところ出ないところがあり、当時はうつる病気だと思われていたので、被害のない地域からひどい差別を受けたそうです。正しい情報を知ることは大切だと思いました。

また、水俣病では、このような公害を二度と起こさないために、環境への取り組みをいろいろ行

っていました。ビンを色ごとに回収しそれをアスファルトの原料にしたり、ビンを加工して工芸品を作ったりしていました。今回学んだことを、今後のレポート作成に生かしていきたいと思います。また、家族や友人にも伝えて、水俣病や現在の水俣について正しい情報を広めていきたいです。（9組 女子）

・私は今まで水俣を訪れたことがあります。でも高校生としての観点で見ると水俣はきっと違うだろうと思いつつ、水俣フィールドトリップに参加しました。

研修を通して、今までよりもより深く学ぶことができました。一番最初に行った田中商店では、田中商店の方の熱意を感じられました。水俣ではごみを20種類以上に分別していることは知っていましたが、水俣でのリサイクル工場を見学するのは初めてでした。水俣では公害を教訓として環境に良い取り組みをしています。だからリサイクル工場でも出来るだけごみを出さない工夫がされていました。私が一番良いと思った使用済みビンの使用法は伝統工芸品のような商品です。お酒を飲む用の容器だったり、花びん、つまようじ入れのようなものなど色々な種類がありました。加工がきれいで一石二鳥の商品だと思いました。次は水俣病資料館を訪れて、語り部の方のお話を聞きました。水俣の公害を体験されている方だけあって、ご自分が体験された公害についてとても詳しく熱心に話して下さいました。水俣公害の恐ろしさや、偏見・差別など、より具体的に学ぶことができました。

最後は「サラたまちゃん」は水俣病とどう関係があるのだろうか。」と聞いていたのですが「サラたまちゃん」は水俣に大切な商品なのだとわかりました。開発者の方も熱心に話して下さいました。水俣の公害後からの復興をよく表していると思いました。水俣は地元の熊本でもあるので、これから身近な環境について学んでいきたいと思います。（9組 女子）